

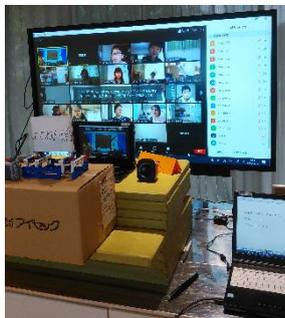


オンライン授業

帝京大学小学校校長 石井 卓之

5月11日(月)から、オンライン授業を開始しました。開始の事前準備として使用する各教室等では、モニターやPC、ライティングなど見えやすくするための様々な工夫をして、実際に試してみました。入念な準備をしても、当日はネットワーク環境が不安定になり、動きが止まったり画面が映らなくなったりするトラブルがありました。教室の授業と異なり、子ども達の反応を見て話し方や教材の提示の方法を考えるという、当たり前のことが当たり前にできないことに戸惑いも数多くありました。高学年のオンライン授業が行われる午前中に、午後担当の低学年の先生たちも参観したりサポートに入ったりして、チーム帝小校として全力で取り組みました。

「ZOOMの操作を間違えて、必要なボタンがなくなってしまった。」「音声が入らなくなり再起動してみたが、直らない。」「先生の声が聞きづらい。」などのトラブルに対しては、電話でできる限り対応してきましたが、まだまだ十分とはいえません。また、9時、10時、11時などの時間帯は学校にある大型モニターの映像が一時的にフリーズするなど、回線の使用が集中する時間帯がありそうだとということも分ってきました。スピーカーやマイクを急遽購入して環境整備をしたり、映像が途切れやすい時間帯には動きが少ない授業内容に変えたりするなど、その都度工夫を加えています。また、今までの授業内容は録画してありますので、これからはセキュリティーを確保しながらオンタイムでなくても見られるように、学校側の環境を整える努力をしていきます。



高さ調整はある物で



チームでサポート



機器の配置は教室ごとに工夫

5月11日、文部科学省がYou Tubeで「学校の教育環境に関する説明会」という通常なら各都道府県の担当者を東京に集めて行う説明会が実施できないために、オンラインにアップしました。GIGA スクール構想について2時間半という長い時間をかけて説明しているものです。その中で担当者がいつになく強い語気で説明をしていたのは、新型コロナウイルス感染症対策で学校が休校に追い込まれている今こそ、以下の4点を念頭に置いてICTを駆使してできることからすぐに着手し、学習を保障してほしいということでした。

- ・使えるものは、何でも使って
- ・できることから、できる人から
- ・既存のルールにしばられずに、臨機応変に
- ・何でも取り組んでみる

また、ベネッセは5月15日に「親子の生活における新型コロナウイルス影響調査」の結果(3月20日～5月8日)を発表しました。その中で、「学校の勉強に遅れてしまう」という親の不安は4月に入って急増し、小学校低学年では1か月で2倍、中学生では6割を超えたとして

います。

まだまだできることは限られてはいますが、授業が単調になり子どもたちの集中力が続かなくなることや知識注入型の一方向通行にならないようにすることなどに配慮し、オンライン授業の質を高めていきます。